

大学・大学院
留学生
の
日本語

3 論文読解編
Reading Essays

Japanese
for
International College / Graduate Students

アカデミック・ジャパニーズ研究会 編著



— 会員一覧 —

小山 宣子 (おやま のぶこ)	弘前大学	市瀬 智紀 (いちのせ ともり)	宮城教育大学
小池 恵己子 (こいけ えみこ)	元・弘前大学	中島 美樹子 (なかじま みきこ)	東北大学工学部
大口 孝子 (おおくち たかこ)	秋田大学	稲村 真理子 (いなむら まりこ)	東北大学留学生センター
佐々木 順子 (ささき よりこ)	秋田大学	内山 敦子 (うちやま あつこ)	東北大学留学生センター
宮本 律子 (みやもと りつこ)	秋田大学	佐藤 勢紀子 (さとう せきこ)	東北大学留学生センター
岡崎 正道 (おかざき まさみち)	岩手大学	*仁科 浩美 (にしな ひろみ)	東北大学留学生センター
松岡 洋子 (まつおか ようこ)	岩手大学	福島 悦子 (ふくしま えつこ)	東北大学留学生センター
山田 一裕 (やまだ かずひろ)	岩手県立大学	山口 弘美 (やまぐち ひろみ)	東北大学留学生センター
高木 裕子 (たかぎ ひろこ)	山形大学	川上 郁雄 (かわかみ いくお)	早稲田大学

(2004年3月現在。*は執筆担当者)

このテキストについてのご意見などありましたら、下記までご連絡ください。

〒980-8576 仙台市青葉区川内
東北大学留学生センター 気付

アカデミック・ジャパニーズ研究会

大学・大学院 留学生の日本語 ③論文読解編

2002年3月20日 初版発行

2004年5月20日 第3刷発行

編著者 アカデミック・ジャパニーズ研究会

発行者 平本照磨

発行所 株式会社アルク

〒168-8611 東京都杉並区永福2-54-12

電話 03-3323-5514(日本語書籍・MOOK編集部)

03-3327-1101(カスタマーサービス部)

印刷所 図書印刷株式会社

本文イラスト gono mio

©2002 アカデミック・ジャパニーズ研究会

Printed in Japan

乱丁・落丁本はお取り替えいたします。(定価はカバーに表示してあります)

地球人ネットワークを創る
株式会社 **アルク**
<http://www.alc.co.jp/>

大学・大学院
留学生
の
日本語

③ 論文読解編
Reading Essays

Japanese
for
International College / Graduate Students

江苏工业学院图书馆
藏书章

アカデミック・ジャパニーズ研究会 編著

はじめに

『大学・大学院留学生の日本語』は、日本語の高等教育機関の専門分野の勉強をしようとする留学生などのために作成されたシリーズ教材です。これから日本の大学に入る人、高専や大学で学んでいる留学生、大学院入学をめざす研究生、大学院で研究している留学生や外国人研究者など、学術的な専門分野で勉学・研究をしようとするすべての日本語学習者が対象です。また、このシリーズ教材は、各専門分野にほぼ共通する専門日本語の土台の部分を扱っていますので、文科系、理科系を問わず、どの分野の学習者にも役にたつ内容となっています。日本語の学習段階でいえば、読解編と作文編は中級、論文読解編と論文作成編は中級後半から上級に対応しています。

このシリーズ教材の最大の特徴は、専門分野での勉学・研究に不可欠な論理的思考による理解・表現能力の養成をめざしている点です。日本語の文法の積み上げ学習をし、たくさん言葉覚えても、論理的な文章の読み書きのしかたがわからないために、大学・大学院での勉学や研究に困難を感じている学習者が少なくありません。そこで、論理的な文章がどのようなものかということが練習を重ねていくうちに自然にわかり、最後には論理的文章を読み書きする力が確実につくような教材として、このシリーズ教材を作りました。

読解教材では、素材となる文章の論理的構造に着目した読みのスキルの習得をめざしています。読解編では報告文や論説文を読む力をつけ、論文読解編では学術論文を読むための基礎的な読解力を養います。一方、作文教材では、論文等の構成や展開パターンに即した練習を積みかさねることによって、学術的文章の作成技術の獲得をめざします。作文編では研究計画書の書き方を、論文作成編ではレポート、研究発表要旨、学術論文の基本的な書き方を学びます。

シリーズ中の各テキストは、一冊だけで学習することもできますが、併用すれば、より大きな学習効果が得られます。たとえば、読解編と作文編の各課の学習項目は、二冊を同時進行で使えばいっそう効果があがるように作られています。論文読解編と論文作成編の関係も同様です。また、読解編や作文編を終えた人は、論文読解編や論文作成編に進めば、より高次の読解力、作文力を身につけることができるでしょう。

このシリーズ教材は、東北地方の六大学の日本語教育関係者が、グループ内の執筆担当者が作った教材をくりかえし試用・補訂するかたちで、共同で作成したものです。数年にわたる教材作成の過程で、東京工業大学の仁科喜久子先生をはじめ、多くの方々に貴重なご助言とあたたかい励ましをいただきました。各専門分野の先生方や留学生にも、教材作成の素材や参考資料となる研究文献を快く提供していただきました。また、今回出版のはこびとなったのは、ひとえに株式会社アルク日本語出版編集部のご理解とご支援のためものです。協力者の方々に心から感謝の意を表します。

2002年1月

アカデミック・ジャパニーズ研究会

本書をお使いになる方へ

1. 本書の目的

・本教材は、レポートや学術論文などの論説文を読むのに必要な文法知識、構造に関する知識などを学びながら、各自の専門分野の論文を独力で読んでいくための基礎的読解力をつけることを目的としています。

2. 本書の特徴

・本書は第Ⅰ部基本編と第Ⅱ部実践編に分かれています。第Ⅰ部では、論文を読むための基礎となる文章の構成に関する知識や文法知識を学習しながら、大意を把握したり、必要な情報を読み取ったりする練習をします。説明文からはじまり、徐々に筆者の分析、考察、意見・主張等を含んだ論説的なものへ進んでいきます。第Ⅱ部では、実際に書かれた論文を使い、専門の論文読解を意識した、より実践的な練習を行います。10課から13課までは、数値データを用いた調査・実験型の論文と、論を中心にまとめられた論文をとりあげました。序論、本論、結論のそれぞれにおいて、構成、論の展開のしかた、よく使われる表現などを学びます。また、最後の14課は、序論から結論までを通して読む総まとめの課として設けてあります。

- ・学習者にとって理解が困難と思われる語句には、英訳、中国語訳、韓国語訳をつけました。
- ・文には文の番号、段落にはローマ数字がつけてあります。これは、「構造」のところで中心文や、段落を示しやすくするためです。語句の意味も文番号で示してあります。
- ・漢字のふりがなについては、初級から中級初めの漢字500字程度を習得した学習者を想定し、読みが困難と思われるものにふりがなをつけました。同一語句は、各ページの初出にのみつけました。

3. 各課の構成と内容

・課の構成と内容は次のとおりです。一つの課の中での、進める順序は、必ずしもこのとおりでなくてもかまいません。なお、各課の具体的な内容は目次をご覧ください。

第Ⅰ部（1～9課）

読む前に
本文
構造
内容理解
読むための文法
言葉の練習

第Ⅱ部（10～14課）

読む前に
論文A 本文 内容理解
論文B 本文 内容理解
構造
言葉の練習

ただし、14課は総合練習として、1つの論文を読む。課は「読む前に」「本文」「内容理解」からなる。

読む前に

その課で読む内容について、各自が既に持っている知識をよびおこしたり、自分なりの内容予測を行うことを目的としています。教師にとっては、学習者の関心度、基礎知識の有無などを確認することにも役立ちます。

本文

第Ⅰ部の本文の字数は約1,200～1,500字です。一語一語に注目して読んでいくのではなく、本文の初めに示された目的にそって、ある程度の量をスピードを持って読みます。わからない言葉があるときには、【語句】の英語、中国語、韓国語の訳をご覧ください。

なお、第Ⅱ部は、論文を序論、本論、結論に分けて読んでいくので、その課により、読む分量は異なりますが、読み方、語句などに関する注意点は第Ⅰ部と同じです。

構造

論理的な文章がどのような構成要素からなり、また、どのように組み立てられているかを学びます。段落内の構造から始まり、論説文に必要な構成要素、論の展開の仕方を扱います。これにより、文章の骨組みや書き手が意図することを押さえることができます。

内容理解

文章の大意が把握できているか、必要な情報が取り出せ、理解できているかどうかを正誤問題、穴埋め問題、図式化などを通して確認していきます。

読むための文法

第Ⅰ部で読解上、役にたつと思われる文法を学びます。文法の知識を読解に活用することで、文章内容の予測や、文章の正確な読み取りの力を身に付けることを目指します。

言葉の練習

レポート、論文等に類出する言葉の定着を図ります。また、未習語句がでてきたときに、辞書を使わずに、さまざまな要素を手がかりに解いていく対処法も学びます。

4. 本書の使い方

- ・ 1コマ90分で1課を終えることを基本に各課を作成しましたが、使う方々の状況に応じて、学習済みの部分を省略する、あるいは、練習問題を増やすなどして使用してください。
- ・ また、第Ⅱ部は、論文の構成上、1課分の分量が一定ではないので、1コマ以上を要する場合があります。また、第Ⅱ部は、2つのタイプの論文を論文構成に従い、同時に進めていく方式になっています。両方のタイプに触れていただきたいと思いますが、学習者の専門の論文のタイプに合わせ、どちらか一方のみを使用することも可能です。
- ・ 各課における注意点、作成意図につきましては、別冊子の解説をご覧ください。

執筆担当 仁科浩美

目次

はじめに.....	3
本書をお使いになる方へ.....	4

第I部 基本編

課	題名	構造	読むための文法	言葉の練習	ページ
1	異文化適応 <small>いぶんかてきおう</small>	段落内の構造	書きことばの特徴	和語・漢語、共起する語、未知語処理	10
2	いじめ	話題と メインアイデア	助詞相当語	重要語句、未知語処理	19
3	衝動買いを誘導する <small>しゅうどうがきをゆうどうする</small>	アウトライン	複文	重要語句、未知語処理	27
4	ビデオカメラの 人間工学	文章構成	指示表現	重要語句、漢字からの推測、未知語処理	36
5	多様化の中のテレビ <small>たようか</small>	論の展開①	文の構造分析	図表表現	45
6	フリーター	論の方向を示す 表現・事実(データ) と筆者の考え	文末表現①	重要語句、共起する語	55
7	安全でおいしい水 を飲むために <small>の</small>	論の展開②	文末表現②	未知語処理	63
8	「まじめ」という 言葉 <small>ことば</small>	引用	接続表現と予測	共起する語、重要語句	72
9	がん告知 <small>がんこち</small>	要約	—	慣用表現、重要語句	84

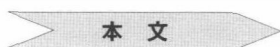
第Ⅱ部 実践編

課	題名	構造	ことばの練習	ページ
	論文A 降水に含まれる無機成分の化学的特徴 <small>こうすい ふく むきせいぶん とくちゆう</small>			
	論文B 企業内研修にみる文化摩擦 <small>きぎやうないけんしゆりょう まさつ</small>			
10	論文を読む① 全体構成・序論	構成、展開、文型・表現	辞書からの意味づけ	94
11	論文を読む② 本論その1	構成、文型・表現	和語・漢語、語構成	103
12	論文を読む③ 本論その2	構成、文型・表現	重要語句、副詞	108
13	論文を読む④ 結論	構成、展開、文型・表現	重要語句	125
14	論文を読む⑤ 総合練習	論文 「なぜ人は道に迷うのか」		133

重要語句索引…………… 141

出典一覧…………… 144

記号の見方



例

段落の番号 → I

文の番号 → 1

1 文化は私たちの考え方や行動に多くの面で影響を与えている。
なる者たちが一緒に行動すると、これまで常識としてきたことが否
とがある。3 文化の違いによって生じるカルチャー・ショックは精

語句の説明 → 【語句】

数字は文の番号 → 1 影響を与える： to influence 影响 영항을 주다

2 異なる： to differ 不同 다르다

太字は大切な言葉 → 常識： common sense 常识 상식

否定する： to negate, to deny 否定 부정하다

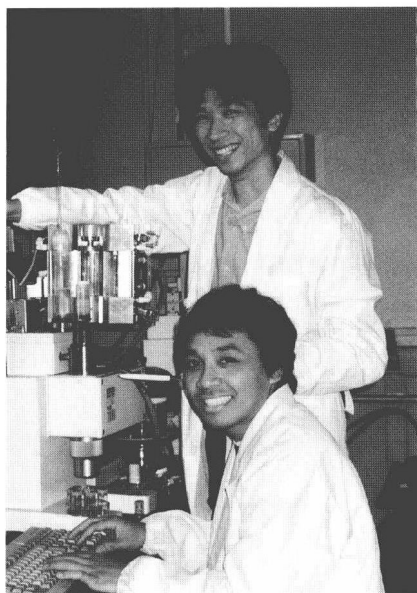
第 I 部 基本編

さまざまな話題に関する文章読解を通して、論説文を
読むのに必要な基本的知識・技術を学びます。

第1課

異文化適応

いぶんかてきおう



読む前に

1. 日本に来てから、文化の違いに驚いたり、困ったりしたことがありますか。
2. カルチャーショックという言葉ことばを聞いたことがありますか。
3. あなたの国と日本とを比べると、日本のいいところ、悪いところはどんなところでしょうか。

本文

文化が異なる国で生活していくとき、人はその文化に、どのように適応していくのだろうか。

- I ¹文化は私たちの考え方や行動に多くの面で影響を与えている。²そのため、文化の異なる者たちが一緒に行動すると、これまで常識としてきたことが否定されてしまうことがある。³文化の違いによって生じるカルチャーショックは、精神的にかなりの苦痛を感じさせることもある。
- II ⁴しかし、その反面、新しい物の見方、考え方などを身につけるきっかけになるとも言われている。⁵それを紹介したのはアドラー（Adler,P.S.）という学者である。⁶アドラーによると、カルチャーショックを経験するということは、その国の文化を理解しようとしている証拠であるという。
- III ⁷最近では、カルチャーショックは避けるものではなく、乗り越え、自分を大きく成長させるものとしてとらえられている。⁸その成長過程をアドラーは「異文化への移行体験（transitional experience）」と呼んでいる。⁹成長過程を5つの段階に分けたものをここで紹介する。

異文化への移行体験

・第1段階—異文化接触（Contact）

¹⁰多くの人には多大な期待や希望を持って外国を訪れるため、初めの段階は見たり、聞いたりするものに対して、興奮や幸福感が非常に強い。¹¹結婚生活におけるハネムーンの時期と同じである。¹²食べ物や音楽などの表面的な文化の違いは珍しいものとして認識されるが、深い文化の違いはあまり認識されない。¹³逆に共通点ばかりが目につく。

・第2段階—自己崩壊（Disintegration）

¹⁴この段階では現地の人の行動、価値観や考え方の違いが目につき始め、共通点が見えなくなる。¹⁵以前まで常識だと思っていたことが通じなくなり、自分に自信がなくなる。¹⁶さらに、現地の人の行動が理解できなくなり、混乱が生じる。

・第3段階—自己再統合（Reintegration）

17 この段階では混乱こんらんや無気力感むきりくかんが怒りに変わり、その国のすべてを受け入れなくなる。
 18 これは異文化適応いきぶんかてきおうから一歩後退いっほこうたいしたように思われるが、アドラーはその国との文化の差さに気づくとともに、もう一度自分の直感ちくかんに基づいて行動できるようになる点で一歩前進だと言っている。19 この時点で、第1段階のように表面的なつきあいにもどるか、あるいは文化の差を受け入れ、新しい現実へ進んでいくか、決めることになる。

・第4段階—自律 (Autonomy)

20 この段階では共通点きょうつうてんも相違点さういてんもありのままに受け入れることができるようになる。

21 以前と違い、自分の文化から物事ものごとを見る必要性を感じなくなり、現地の文化をそのままに受け入れ、「人に頼らなくてもやっていけるようになった」という満足感まんぞくかんが持てる。

・第5段階—独立 (Independence)

22 最後の段階では自分の行動がどのように文化に影響えいきやうされているかを把握はあくできるようになる。23 状況じやうきやうに応じてどちらの文化に合った行動をとるかを選択せんたくしたり、または、まったく新たな行動をとることもできるようになる。24 さらに、文化による共通点きょうつうてんも相違点さういてんもプラスの面あらでとらえられるようになる。

IV 25 カルチャーショックの度合いは人によって異なることものである。26 しかし、カルチャーショックはだれもが体験する一時的なものであり、異文化に適応していく上で経験する成長過程かていなのである。

(磯貝友子ほか『異文化トレーニング』 三修社より)

【語 句】(数字は文の番号を表す。また、太字は論文や専門書でよく用いられる言葉を示す。)

1	影響 <small>えいきやう</small> を与える <small>あた</small>	to influence	影响	영향을 주다
2	異なる <small>こと</small>	to differ	不同	다르다
	常識 <small>じやうしき</small>	common sense	常识	상식
	否定 <small>ひてい</small> する	to negate, to deny	否定	부정하다
3	生じる <small>しじう</small>	to happen, to take place	产生	생기다, 일어나다
	カルチャーショック	culture shock	文化冲击	문화충격
	苦痛 <small>くつう</small>	pain, agony	痛苦	고통
4	きっかけ	a start, a chance	机会	계기
6	証拠 <small>しやうこ</small>	proof, evidence	证据	증거

7	避ける <small>さ</small>	to avoid	避开	피하다
	とらえる	to think of as	认为	받아들이다
8	成長過程 <small>せいちょうかてい</small>	course of growth	成长过程	성장과정
10	多大な <small>ただい</small>	great	很大的	커다란
	期待 <small>きたい</small>	expectation	期待	기대
	希望 <small>きぼう</small>	hope	希望	희망
	訪れる <small>おとず</small>	to visit	访问	방문하다
	興奮 <small>こうふん</small>	excitement	兴奋	흥분
	幸福感 <small>こうふくかん</small>	feeling of happiness	幸福感	행복감
11	ハネムーン	honeymoon	蜜月	허니문 (신혼)
12	認識する <small>にんしき</small>	to recognize	认知	인식하다
13	逆に <small>さか</small>	reversely	与之相反	오히려, 거꾸로
	共通点 <small>きょうつうてん</small>	common points	共同点	공통점
14	現地 <small>げんち</small>	the region	当地	현지
16	混乱 <small>こんらん</small>	confusion	混乱	혼란
17	無気力感 <small>むきりよくかん</small>	spiritless feeling	无力感	무기력감
	怒り <small>いか</small>	anger	愤怒	화
18	後退する <small>こうたい</small>	to retreat	后退	후퇴하다
19	つきあい	association	交往	사교
20	相違点 <small>さういてん</small>	a point of difference	不同点	상이점
21	頼る <small>たよ</small>	to rely on	依靠	의지하다
22	把握する <small>はあく</small>	to grasp	掌握	파악하다
23	状況 <small>じょうきょう</small>	conditions	情况	상황
	選択する <small>せんたく</small>	to choose	选择	선택하다
24	プラス	plus	有益处	플러스
25	度合い <small>どあい</small>	a degree	程度	정도
26	一時的な <small>いちじてき</small>	momentary	暂时	일시적인

◆ 段落内の構造

一般に、1つの段落は

中心文・・・その段落の話題や、主題を示す文

支持文・・・中心文をわかりやすくするために、具体的な例や説明を加える文

まとめ文・・・全体をまとめる働きをする文

から構成されている。しかし、例外も多く、物事の経過などを並べる場合には、特定の中
心文がないこともある。

なお、中心文は段落の初め、中、終わりなどいろいろな位置に見られるが、段落の初めに置かれることが一番多い。

・中心文を見つけることは、文章（読み物）全体の流れをつかむのに非常に役に立つ。

「異文化適応」の中心文は、次のようになる。

- I ³文化の違いによって生じるカルチャーショックは、精神的にかなりの苦痛を感じさせることもある。
- II ⁴しかし、その反面、新しい物の見方、考え方などを身につけるきっかけになるとも言われている。
- III ⁷最近では、カルチャーショックは避けるものではなく、乗り越え、自分を大きく成長させるものとしてとらえられている。

異文化への移行体験

第1段階 (a.)

第2段階 (b.)

第3段階 (c.)

第4段階 (d.)

第5段階 (e.)

IV ²⁶カルチャー・ショックはだれもが体験する一時的なものであり、異文化に適応していく上で経験する成長過程なのである。

【問い】異文化への移行体験について、5つの段階それぞれの、中心文の番号を()に書きなさい。

内容理解

本文を読み、次の問いに答えなさい。

1. 日本へ留学したAさんの第1段階から第5段階までの言葉をa～eに示した。a～eはそれぞれの段階の言葉だろうか。

- (2) a. 「どうなっているんだ。日本人の考えていることはどうも私にはわからない」
- (3) b. 「日本人はもう嫌だ。みんな表面的でなかなか本当の気持ちを言わない。誰を信じていいかわからない。こんな国へ来ないほうがよかった」
- (1) c. 「日本は素晴らしい国だ。日本人は親切だし、街もきれいだし、とてもいいところだ」
- (5) d. 「仕事も家庭生活もうまくいっている。どちらの文化のやりかたで行動するか、状況に合わせて選べるようになった。周りに何でも話せる友だちがいるのは素晴らしい」
- (4) e. 「だいたい慣れてきた。今でも日本人の行動にはとまどうことがあるが、落ち着いて考えればだいたい分かるようになってきた」

2. 異文化への移行体験について、5つの段階と満足度との関係を図に表しなさい。

